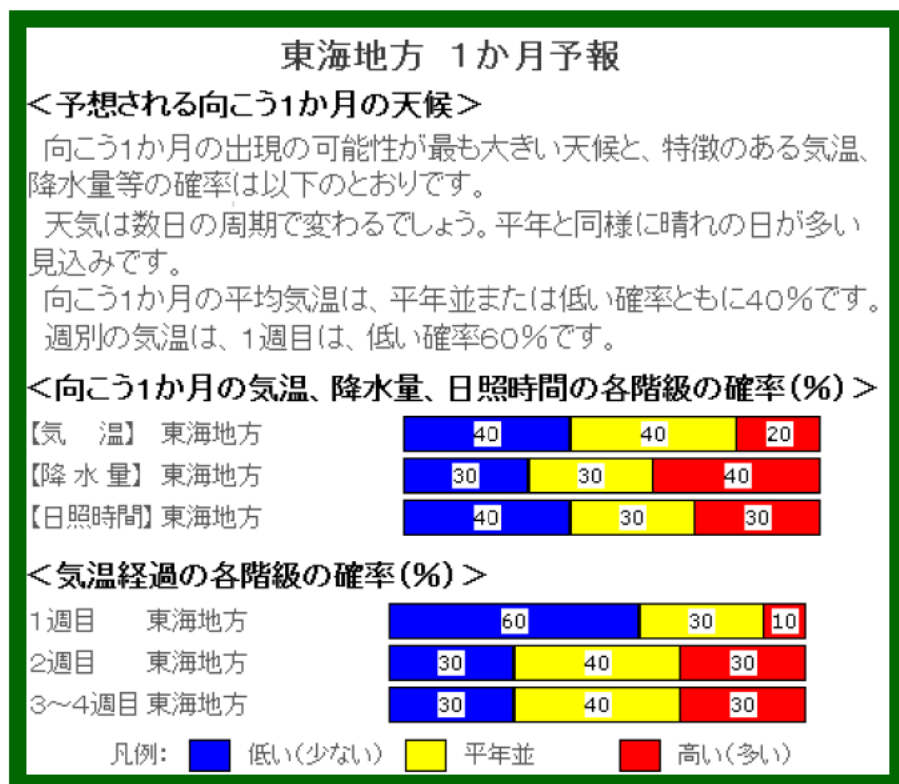


## 5. 今月のトピックス「農業生産における天気予報の利用について」

近年、気象の変化が激しくなるに伴い、病虫害の発生も大きく変動し、農業生産に大きな影響を及ぼしつつあります。一方、気象予測技術の発達により、季節予報などの、長期間を対象とした信頼度の高い気象情報が発表されています。今回は 1 か月予報を例にとり、季節予報の利用について解説します。

### ◆季節予報とは◆

季節予報には、名古屋地方気象台から発表される 1 か月予報(毎週金曜更新)や、3 か月予報(毎月 25 日頃更新)などがあり、津地方気象台ホームページで閲覧することができます(アドレス <http://www.jma-net.go.jp/tsu/>)。



### ◆1 か月予報の利用方法◆

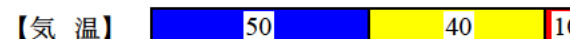
左下の図は 1 か月予報の例を示したものです。

- (1) 予想される向こう 1 か月の天候: 1 か月間に予想される天候の特徴です。＜特に注意を要する事項＞が示された場合は、天候の大きな変化に注意してください。
- (2) 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間、週ごとの気温経過: 平年値(1981 年～2010 年の 30 年間の資料で作成)を基準に、3 つの階級「低い(少ない)」、「平年並」、「高い(多い)」に分けて、それぞれの階級が現れる確率で表現されています。
- (3) 病虫害発生予察情報における、1 か月予報の表現: 病虫害発生予察情報では、階級の確率表示のうち、10%や 50～70%などは統計的に有意性が高いと判断し、次のような表現をしています。

例 1: 気温の高い確率が 60%であるため、「気温は高い予想」。



例 2: 気温の高い確率が 10%であるため、「気温は高くない予想」もしくは「気温は平年並または低い予想」。



1 か月予報(4月 19 日発表)によると、向こう 1 か月の天候は、高気圧と低気圧が交互に通る、天気は数日の周期で変わる予想です。気温は平年並か低い予想です。

季節予報や病虫害発生予報を上手に活用して、今後の作業計画を立てることで、農業生産における気象リスクや、病虫害の発生リスクを軽減しましょう。